

# 健康科学・看護学

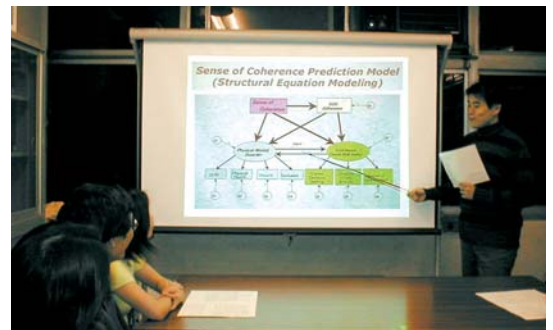
## Health Sciences and Nursing

### 健康社会学 Health Sociology

<http://www.hlthsoc.m.u-tokyo.ac.jp/indexj.htm>

健康・病気と保健・医療をめぐるさまざまな問題の解明を行っています。社会学と社会心理学の概念・理論及び方法を応用し、保健医療看護分野と社会学分野の両方にまたがる学際性が特徴です。

- アントノフスキーの健康生成論サルートジェネシスと健康保持能力 SOC に関する研究
- 非加熱血液製剤による HIV 感染被害と救済に関わる調査研究
- 医療者-患者関係の転換と患者の主体化に関する現状分析と理論開発
- 企業社会の変動が労働者の『働き方・生き方』と疲労・ストレスに及ぼす影響に関する研究
- 健康の社会的格差・不平等とその形成要因に関する研究
- 病・ストレスと生きる人々の支援科学としての健康社会学の実証及び理論研究と体系化



プロジェクターを用いた研究結果のプレゼンテーション風景

### 精神保健学／精神看護学 Mental Health / Psychiatric Nursing

<http://plaza.umin.ac.jp/~heart/>

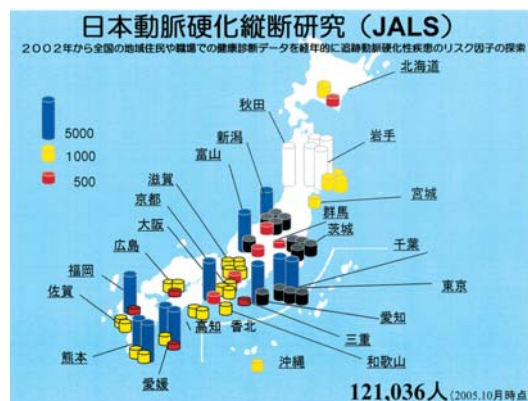
心の健康問題とストレスの研究および専門家の教育を国際的視野から推進

- 精神保健
  - 精神保健疫学
  - 職場のメンタルヘルス・産業保健心理学
  - 心理教育・ストレスマネジメント
  - スクールカウンセリングの評価
  - 心理療法の実践と評価
  - PDD の早期発見と療育
- 精神看護
  - 精神疾患を有する人の地域生活支援
  - 精神科訪問看護の実践と評価
  - 精神保健領域における疾病自己管理
  - 精神疾患を有する人にとってのリハビリ
  - 精神科医療に対する患者満足



生物統計学および疫学は健康科学の方法論的基礎を支える分野である。当教室では、生物統計学と理論疫学の方法論研究と共に、基礎・臨床研究者に対するコンサルテーション・共同研究を、教室スタッフが設立したNPO「日本臨床研究支援ユニット」と連携して数多く実施している。

- 方法論的研究
  - 臨床試験の計画
  - 相関のあるデータの解析  
QOL等の継時データ解析、多発（多種）イベントデータ解析
  - 因果推論
- 共同研究プロジェクト
  - 動脈硬化予防研究基金統合研究
  - 乳癌臨床研究支援事業（研究者主導臨床試験 NSAS）
  - 骨粗鬆症臨床研究支援事業（研究者主導臨床試験 JOINT）
  - 細胞移植に関する研究者主導臨床試験



健康学習・教育学 *Social Gerontology*

現代医療の諸問題、特に高齢者保健、がん医療、医療倫理等に対して、心理学、社会学、文化人類学などの学際的な視点に立ち、(1)人間の心身の健康を向上すること、(2)意思決定困難な問題への対応を提言すること、を最終的な目標として研究を行っている。

- 高齢者におけるソーシャル・サポート授受と主観的幸福感
- 高齢者における転居と適応
- 活動的余命の測定
- がん患者の心理社会的問題（特に夫婦/家族関係、セクシュアリティ）
- がん治療における当事者の意思決定過程
- 難病当事者支援のための自助グループ活動
- 生殖医療に関する心理社会的問題
- 臨床現場における多職種連携



教室会議の様子

健康増進科学 *Health Promotion Sciences*

健康増進科学分野では、生活習慣と疾病の関連や、地域・職域における疾病予防・健康管理活動の調査分析を通して、健康管理システムと健康政策提言を目指した研究活動を行っている。

授業では、地域・職域における疾病予防・健康増進活動の企画・実施・評価について、具体的な方法を理解し実践できることを目指す講義と実習を行っている。

主な研究テーマ：

- 地域・職域における健康づくりプログラムの開発・実施・評価
- 健康づくり支援環境に関する研究
- 健康行動の評価・支援方法ならびに健康への影響
- 行動変容の短期的・長期的効果
- 健康づくりプログラムの費用対効果、医療費への影響
- 行動変容の長期的継続に関わる個人的・環境的要因など



地域における健康づくり支援プログラムの一場面

医療倫理学分野では、生命・医療倫理、研究倫理、臨床倫理の領域における理論的研究と実証的研究を行っている。主な研究のトピックには、倫理理論、インフォームド・コンセント、倫理委員会、臓器移植などがある。2009年7月からは、グローバルCOE「次世代型生命・医療倫理の教育研究拠点」(UT-CBEL)が採択された。(http://www.cbcl.jp)

- 日本における倫理委員会の機能と責任の研究
- 先端医療技術に関する社会的合意の形成方法に関する研究
- アジアにおける臨床倫理の比較研究
- 日本の医療倫理ケースブックの出版
- 日本における事前指示の適用可能性の研究
- 生命・医療倫理教育の評価方法の開発
- 生体臓器移植の心理社会的・倫理的側面の研究



アウトリーチ活動：CBELは倫理委員会のメンバーのための人材養成コースを開講している。主な受講者は、医師、看護師、医薬情報担当者(MR)などである。

## 看護管理学／看護体系・機能学 *Nursing Administration/ Advanced Clinical Nursing*

看護師が質の高いケアを効率的に提供することができる組織や体制について研究している。医療制度改革が行われる中、看護の役割が従前にも増して重視されるようになり、看護ケアの効果を明らかにし、ケアの質を保証・改善するシステムを構築する必要がある。

- 看護の質の評価と改善
- 看護質指標のベンチマーキング
- 看護の成果管理
- リスクマネジメント
- 人材マネジメント
- 患者管理とクリティカルパス
- ケア環境が患者に及ぼす影響
- 看護質指標の国際比較
- 看護政策および看護経済



質の高い看護実践をサポートします

## 家族看護学 *Family Nursing*

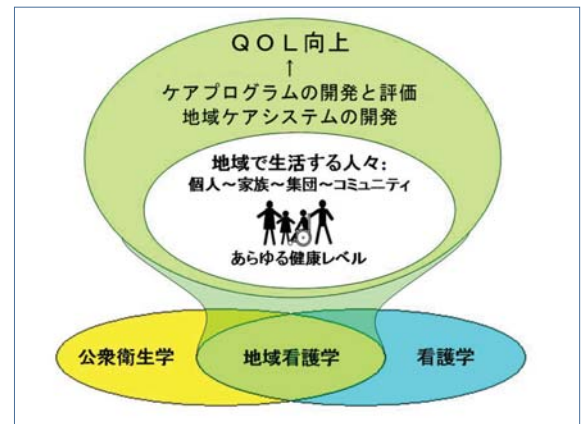
少子高齢化や男女共同参画などの社会の動きに伴って、家族の形態や機能にも変化が生じている。現在の日本社会は、患者中心ばかりでなく、家族中心の捉え方を看護研究に期待している。当教室では、中でも、母子領域の家族看護学研究に焦点をあてている。

- 小児がんの子どもに見る晩期合併症と PTSD
- 小手術を受ける子どもの心理的準備
- 児童虐待予防
- 死にゆく子どもと家族への援助
- 家族を形成する過程についての研究
- 産後うつ病と育児困難



地域で生活する人々を、個別に、また家族や集団、地域全体としてとらえ、その健康や QOL の向上を目指して、健康課題の明確化と支援方策の開発や、地域ケアシステムの構築とその評価を行なっている。また、地域ケアの担い手である保健師の支援技術（保健指導）に関する研究を展開している。

- 地域ケアシステムの構築と評価
  - 24 時間在宅ケアシステム
  - 訪問看護の場の拡大
  - 病院からの退院支援システム
  - 地域包括ケア、ケアネットワーク
- 健康課題の明確化と支援方策の開発
  - 疾患・障害とともに生きる人へのケア
  - 子育て支援
  - 高齢者ケア
  - 産業保健
- 保健師の支援技術の明確化と標準化／保健活動の施文化



地域看護学の体系

成人看護学／緩和ケア看護学 Adult Nursing / Palliative Care Nursing

主として成人期の人々に対し、糖尿病を始めとするいくつかの慢性疾患の予防、疾患との共存と悪化の防止、緩和ケアを要する段階までの幅広い領域で、分子生物学的情報も取り込んだ行動支援、チーム医療のもとでの看護ケア提供システムについて研究を推進している。

- 糖尿病、慢性心不全など慢性疾患の予防・自己管理支援
- 慢性疾患患者の健康関連 QoL 尺度の開発
- 中高年者の身体活動
- 移植看護(主に肝移植・造血幹細胞移植)提供システム
- 遺伝カウンセリングと看護の役割
- 緩和ケアサービスの評価
- 緩和ケアシステムにおけるケアの継続性と普及
- 外来看護提供システム



母性看護学・助産学 Midwifery and Women's Health

当教室は平成 14 年度 6 月より発足し、周産期における母子の健康と女性の生涯を通じた健康づくりに焦点を当てて研究を行っている。

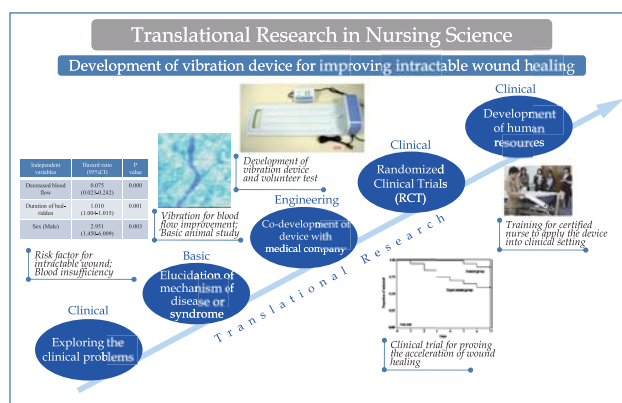
- 妊娠中の日常生活習慣と酸化ストレスとの関連
- 妊娠中の母体体組成と新生児体重に関する研究
- 妊娠・産褥期における母体の栄養・体重管理に関する研究
- 妊婦・褥婦における生活の質の評価
- 産後女性のヘルスケアを促す援助に関する研究
- 妊婦・褥婦の姿勢変化とローカル筋群との関連
- 褥婦・中高年女性の腹圧性尿失禁とインナーユニットとの関連
- 分娩進行予測指標としての子宮収縮関連物質の利用可能性に関する研究



写真 / きくち さかえ

“エビデンスに基づいた老年看護学／創傷看護学の実践と展開”を基本方針としている当教室は、看護理工学・臨床看護学の両側面から、創傷管理技術・機器の開発と評価を行っている。特に、基礎研究から臨床応用を目指した、トランスレーショナルリサーチを主軸としているのが特徴である。また、高齢者の皮膚機能を維持・増進させるために、科学的スキンケア方法の構築を目指し、教育・研究活動を展開している。

- 創傷管理技術・機器の開発と評価
  - 創傷の病態解明およびその診断技術の開発
  - 創傷の管理や予防を目的とした技術・機器の開発
  - 新規技術・機器の臨床評価
- 科学的スキンケア方法の開発と評価
  - 高齢者の皮膚変化の生体工学的解明
  - 皮膚状態の客観的パラメータの探索
  - 皮膚機能の維持・増進を目的とした介入方法の検討



当教室で行ったトランスレーショナルリサーチの例